

第6回 いわき市復旧・復興計画検討委員会 議事要旨

I 開催日時：平成23年 9月26日（月）13:30～16:00

II 開催場所：いわき市役所本庁舎 第3会議室

III 出席者

1 検討委員会委員（五十音順、敬称略）

| 職名等 | | 氏名 | 出欠 |
|---------------|----------------|-------|----|
| 筑波大学大学院 | システム情報工学研究科 講師 | 梅本 通孝 | 出席 |
| 東日本国際大学 | 福祉環境学部 教授 | 遠藤 寿海 | 出席 |
| いわき商工会議所 | 会頭 | 小野 栄重 | 出席 |
| 福島工業高等専門学校 | 建設環境工学科 准教授 | 齊藤 充弘 | 出席 |
| いわき市立総合磐城共立病院 | 病院事業管理者 | 平 則夫 | 出席 |
| 日本大学 | 工学部学部長 | 出村 克宣 | 出席 |
| いわき明星大学 | 科学技術学部 教授 | 東 之弘 | 出席 |

2 事務局出席者

| 職名等 | | 氏名 | |
|-------|--------|--------|-------|
| 副市長 | | 伊東 正晃 | |
| 行政経営部 | 部長 | 大和田 正人 | |
| | 復興監 | 前田 直樹 | |
| | 次長 | 阿部 直美 | |
| | 次長 | 佐藤 克房 | |
| | 行政経営課長 | 鈴木 善明 | |
| | 復興支援室長 | 園部 衛 | |
| | 危機管理課長 | 緑川 伸幸 | |
| | 行政経営課 | 課長補佐 | 緒方 勝也 |
| | | 係長 | 木田 努 |
| | | 主査 | 山形 裕之 |
| 主査 | | 正木 淳 | |
| | 主査 | 中根 政敏 | |
| | 事務主任 | 折笠 雄司 | |

IV 次第

○ 第5回委員会

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) パブリックコメントの意見と対応について
 - (2) 市議会からの第1次提言について
 - (3) キャッチフレーズについて
- 3 その他
- 4 閉会

V 主な内容

(1) パブリックコメントの意見と対応について

(2) 市議会からの第1次提言について

委員長：ただいま事務局から説明がありました。提出された意見が340件と膨大な数になりました。限られた時間の中で、これを整理するのは困難であります。

ただいまの説明にあったように、事務局でパブリックコメント及び議会からの提言を踏まえ、「提言（素案）」を修正しておりますので、これを基に協議を進めてまいりたいと思います。まず、6ページの「(5)推進期間」までのところで、御意見のある方はお願いします。

委員：市民からたくさんの意見をいただいた。大変参考になる意見が多かったと思われる。その中で、目的について、表現が弱かったように感じている。いわきが担うべき役割をもっと出していくべきと考える。意見の中にもあったが、「前例のない複合災害に見舞われた福島県浜通り地域の拠点都市として、復興再生モデルを世界に発信し、持続可能なまちいわきを創る」と明確に示す必要がある。

委員：ビジョンの中には具体的などころがない。ビジョンだからこれでいいわけだが、現在動いているものもあるはずだから、現在の作業がどういった状況にあるのか、関連図みたいなものがあったらいい。

委員：いわきが浜通りの拠点であるということを打ち出していきたい。

委員：イメージをしっかり持てるようにしたい。目的イコールイメージではないが、強いメッセージ性は必要である。イメージが湧くような姿を示すべきである。

委員：ビジョンと施策、目標にも掲げられたが、題名ばかりついているように思う。明確な一言は必要である。

委員：目標イコール取組みの柱というのは、分かりやすさがある反面、同じ言葉があちこちに出てきており、混乱するようにも思われる。

委員：目標を入れたことによって、かえって分かりにくくなっていると思われる。目的をメッセージ性のあるものにしてはどうか

委員：これまで十分議論してきたのだから、今更変えなくてもよいとも思われる。

- 委員：先ほどの目的は、今回のパブリックコメントで市民から寄せられた意見である。これを目的にして、これまでの目的を目標とするのが良い
- 委員：市民の中でビジョンの位置づけがあいまいになっているように思われる。ビジョンの位置づけを説明するところが必要ではないか。特に主な取組などは、ここに書いてあるものが全てと思われるのではないか。
- 委員：全体像が分かりにくくなっているのかなと思う。ビジョンが実施計画のように思われているようにも感じる。取組の体制等は目に見える形にすることも必要である。
- 委員：この段階に至って、大きく内容を変更することについて、事務局の意見を聞かなくていいのか。ビジョンはこのくらいにして、後は実行の段階ではないか。
- 委員：今回の提言はビジョンであるので、哲学的な内容になるのは当然と思うが、パブリックコメントを見ると、哲学が駄目という意見とこれがいいという意見がまざっているようになっている。
- 委員：福島県のビジョンには、ビジョンの位置づけと今後の計画策定について明記されている。それにならって、位置づけをもっと明確にすべきではないか。
- 委員：ビジョンの位置づけが分かるような記載が必要である。策定の趣旨のところに盛り込めると思う。
- 委員：その際には、市民との協働・連携というところをもっと強く表したほうが良い。
- 委員長：目的についてだが、ひとつにする形でいわきならではというものを打ち出していくということによいか。
- 委員：その前に、目標と目的の関連性を整理する必要がある。
- 委員：目的を一つの文章にしても違和感はない。むしろ、分割する方が問題があるように思う。
- 委員：さきほどの、提案のあった「前例のない～」という目的はパブリックコメントに入っているのか。
- 委員：市民からの意見である。本日の資料にも明示されている。今までの目的では、どこの自治体でも通じる話である。大きく目的をこのように修正して、いわきの思いを入れた方が良い。
- 委員：今の目的1は「市民の安全・安心の確保」である。この観点は必要である。
- 委員：その点もうまく目的の中に入れ込んでいく方が良い。
- 委員：意見をまとめると、「前例のない複合災害に対し、地域の拠点都市として、市民の安全・安心を最大限確保した上で、復興再生モデルを世界に発信し、震災前にも増して活力に満ち溢れた持続可能なまちいわきを創る」という形になるか。「複合災害」という文言に注釈が必要である。

委員長：それでは、まとめると、

「前例のない複合災害に見舞われた福島県浜通り地域の拠点都市として、復興再生モデルを世界に発信し、市民の安全・安心を最大限確保しつつ、震災前にも増して活力に満ち溢れた持続可能なまちいわきを創る」とする。

次に、目標については、いかがか。

委員：資料6を見ると入れてもいいと思う。逆に資料5を見ると、重複してしまうので、入れなくてもよい。

委員長：では、目標は外すということによいか。

委員：目標がなくなるわけではない。取組の柱に含まれている。

委員：目的・理念・取組の柱の関係性が分かりにくいところはある。

委員：概要版のほうで、理念を横書きにしてはどうか。縦書きだと、理念1から理念5へ進むというようにとられるのではないか。

委員長：概要版を整理することで、イメージがつきやすくなるように思われる。

次に、資料の4ページ以降について、意見をお願いしたい。

委員：理念全体の説明が追加されているが、財源ありきの話になっているように思われ、後向きの印象は拭えない。具体的な事業については、今後、市民委員会で検討するので、ここでは、財源の話は触れない方がよい。

委員：財源の話は不要である。お金が足りないのならば、国から分捕ってくるような気持が必要であろう。

委員長：間は削って、「～達成するためには、どのような事業に取り組むのか～」というようにする。

理念4のところ、これまで「フクシマ」とカタカナ表記していたが、「FUKUSHIMA」とローマ字表記に変更しているが、これについては、いかがか。

委員：県では、前向きな話、産業の復興などの場合は「ふくしま」とし、原発問題など、ネガティブな場合はローマ字表記しているようである。それを踏まえれば、理念4に記載した「FUKUSHIMA」は原発災害に関連するものなので、ローマ字の方がよい。

委員：ここでの括弧書きは「FUKUSHIMA」だけではなく、その前の「原子力災害～」からつけた方がよい。

委員：「世界中に」という言葉を「原子力災害が発生した」の前に持ってきた方がよい。

委員長：その他、意見のある方は。

委員：6ページの推進期間については、とても良いと思う。やはりこういったイメージを示すことは大事である。これは、県にはないところである。

委員長：次に、主な施策について意見をお願いしたい。

委員：7ページのところで、若年層への震災の影響とあるが、どのような理由があるのか、きちんと記載すべきではないか。

委員：年齢層にこだわらず、「雇用機会の創出に取り組みます」とした方がよいのではないか。

委員：同感である。

委員：「雇用機会を創出し、雇用の確保に努めます」とすべき。

委員長：それでは、そのように修正したい。

委員：言葉の使い方として、「取り組みます」、「努めます」、「進みます」とあるが、この中でも「努めます」は結果的にやらないというような意味にとられる。

委員：比較的是っきりしないところで、「努めます」が多い。「市民と一緒に進めます」とか、協働の表現をとる方が良い。

委員：この主な取組みについては、体言止めとする方が良い。

委員：そのほうがすっきりすると思われる。

委員長：可能な限り、体言止めにしたいと思うが、必ずしもそういった表現ができないところもあるので、調整したいと思う。

委員：取組の柱4で第一次産業の文言が明記されたが、ここでいう「研究」とは何なのか。また、「国・県に呼応」とあるが、国・県が何もしなければ、市も知りませんというようにとられるのではないか。

事務局：農林水産業については、国・県の権限が大きいといった事情がある。市としては、きめ細かいモニタリング、風評被害払しょくに係るキャラバンの実施など、ここにも記載されていることに取り組んでいくこととなる。また、食の安全を含む、原発災害に係る基準については、市だけで決めていくのは難しいため、専門機関との連携による取組みを進めるといった意味合いになっている。

委員：取組の柱4を見ると、第一次産業については、四角囲みから見えない。第一次産業に係る対応が趣旨にも入っていない。趣旨のところ、「農林水産業の再生はもとより～」といった文言があるべき。

委員：そういった形で第一次産業も考慮しているということを示す必要がある。

委員：それに加えて、放射線の検査体制について、充実が必要であり、市民も求めているところだと思う。細かい点かもしれないが、検査体制及び認証制度の確立といったところで盛り込むべきだと思う。そこに大学等を含む民間との連携、あるいは支援といった視点を付記すべきである。

委員長：そういった点も考慮して修正したい。

委員：取組の柱5に関連して、産業の再生・復興のためには、強力な推進体制が必要である。産・学・官の一体となった組織の構築といった文言を加えるべきではないか。「オールいわき」では抽象的で分かりにくい。

委員：ここで、産業に特化した表記はすべきでないと思う。経済だけではなく福祉・医療といった全てについて、「オールいわき」でと表記している現在の文言のままで良い。

委員長：それでは、推進体制については、このままの記載とする。

(3) キャッチフレーズについて

委員：キャッチフレーズについても様々な意見が寄せられている。やはり、力強いメッセージとみんなが進めるといった意味合いは必要である。

委員：パブリックコメントにあるが、「日本の復興をいわきから～次世代型の新しいまちづくりを創造して～」が相応しいと思う。目的を端的に表していると思う。

委員：個人的に「がんばっぺ」という言葉はどうかと思っている。「日本の復興をいわきから」だけで良いと思う。

委員長：その意見は前回もあったが、皆が進めるという意味合いを示すために掲げたものである。

委員：タイトル自体を「がんばっぺ！いわき復興ビジョン」にする方法もある。そうでなければ、「がんばっぺ！いわき」のロゴを表紙に入れることで、表現できると思う。

委員長：ただいまの意見についていかがか。特になければ、「がんばっぺ！いわき」のロゴを表紙に入れることにして、キャッチフレーズとしては、「日本の復興をいわきから」とする。

各委員：異議なし。